

## 名工・西田伊三郎(吉島家)



[http://digitalarchiveproject.jp/information/名工・西田伊三郎\(吉島家\)/](http://digitalarchiveproject.jp/information/名工・西田伊三郎(吉島家)/)



西田伊三郎 安政元年(1854)～明治40年(1907)

西田伊三郎は、高山町の中川原町に生まれ、社寺建築の道歩んだ。伊三郎の父伊兵衛の師は、藤原宗安(ふじわらむねやす)21世を名乗る水間相模宗俊である。

吉島家は日下部家と仲良く並ぶ。日下部家は川尻治助が棟梁、吉島家は西田伊三郎が棟梁になっている。吉島家は明治8年の大火後翌年再建をした。しかし、明治38年、再度火災にあってしまったが、明治40年、西田伊三郎が棟梁となって再建を始めている。明治初年の規模どおりに、焼け残ったふすまや障子に合わせ、建物を寸分狂いなく再建した。西田伊三郎は心労のためか、吹き抜け完了と同時に心臓発作で他界したという。

伊三郎の技は随所で見られ、内部の吹き抜けは立体格子と呼ばれる、いかにも優雅な梁組みを完成させた。

空間のほぼ中央には、ヒノキの大黒柱が棟桁まで8メートル伸び、節一つない。桁行方向にはアカマツの面落しの大梁が架かり、直交して曲り木の飛梁が架かり、それは究極の美を表わしている。ヒノキ材の小屋束と、圧縮に強いマツ材の組み合わせは、「マツ得手」をよく心得た伊三郎ならではの技である。

高山の顔である日下部、吉島家を、棟梁の技巧で比べてみると、飛騨匠の誇りとプライドが見えてこよう。

田中彰編『高山市史・建造物編』高山市教育委員会発行 平成26年3月より



0001\_吉島内部



0002\_吉島内部



0003\_吉島内部



0004\_吉島内部



0005\_吉島内部



0006\_吉島内部



0007\_吉島内部



0008\_吉島内部



0009\_吉島内部



0010\_吉島内部



0011\_吉島内部



0012\_吉島内部



0013\_吉島内部



0014\_吉島内部



0015\_吉島内部



0016\_吉島内部



0017\_吉島内部



0018\_吉島内部



0019\_吉島内部



0020\_吉島内部



0021\_吉島内部



0022\_吉島内部



0023\_吉島内部



0024\_吉島家外観



0025\_吉島家外観



0026\_吉島家外観



0027\_吉島家外観



0028\_吉島家外観



0029\_吉島家外観



0030\_吉島家外観



0031\_吉島家外観



0032\_吉島家外観



0033\_吉島家外観



0034\_吉島家外観



0035\_吉島家外観



0036\_日下部、吉島両家の外観



0037\_日下部、吉島両家の外観



0038\_日下部、吉島両家の外観



0039\_日下部、吉島両家の外観



0040\_日下部、吉島両家の外観



0041\_日下部、吉島両家の外観



0042\_日下部、吉島両家の外観



0043\_日下部、吉島両家の外観



0044\_日下部、吉島両家の外観



0045\_日下部、吉島両家の外観



0046\_日下部、吉島両家の外観



0047\_日下部、吉島両家の外観



0048\_日下部、吉島両家の外観



0049\_日下部、吉島両家の外観



0050\_日下部、吉島両家の外観



0051\_日下部、吉島両家の外観



0052\_日下部、吉島両家の外観



0053\_日下部、吉島両家の外観